

いわき沿岸でみられたウニ資源の減少と 他の磯根生物の特異現象

福島県水産海洋研究センター 漁場環境部

1 部門名

水産業—資源管理—採貝藻

2 担当者名

藤田恒雄

3 要旨

いわき沿岸の複数の磯根漁場で 2020 年頃からキタムラサキウニ（以下、ウニ）の急激な減少や移植したウニの消失がみられた。ウニの減少は茨城県からも報告されており、原因究明と他地区からのウニの移植や種苗放流などによる対策が必要である。ウニ減少以外の特異現象として、植食性小型巻貝（クボガイ科巻貝）の極端な減少等が認められた。

- (1) 令和 2 年まで磯焼け対策のためウニ駆除を行っていた薄磯地区のシマ磯では潜水観察の結果、ウニの生息を確認できなかった一方、磯焼けは解消していた。薄磯、小浜両地区では、漁場に移植したウニが数ヶ月後には姿を消してしまったとの報告があった。
- (2) クボガイ（写真 1）は、多くの地区でいなくなったとの報告があり、潜水観察を行った全ての磯で発見できなかった。クボガイ科巻貝の減少については、日本各地から報告があり、ウニの減少との関係等、情報収集が必要である。アワビについては「減っている、痩せたアワビが多くなった」との情報が寄せられており、資源動向の注視が必要である。また、茨城県内で増えているとの情報がある暖流系種のムラサキウニ（写真 2）の生息が当県で初めて小浜地区で確認された。



図 1 クボガイ貝殻



図 2 ムラサキウニ

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～7 年度
- (2) 研究課題名 アワビ資源の増殖・管理に関する研究

5 主な参考文献・資料

- (1) 青森県内で発生しているクボガイ科巻貝の消滅.青森県水産研究.水と漁.38.2022.
- (2) 「バテイラ」広範囲での急激な減少の実態.令和 2 年度磯根資源・藻場研究会資料.